

1. 評価結果概要表

作成日 2009年 2月 17日

【評価実施概要】

事業所番号	2770701049		
法人名	社会福祉法人ラポール会		
事業所名	くみのき苑グループホーム千寿		
所在地	大阪府河内長野市木戸2丁目33-5 (電話) 0721-50-1151		
評価機関名	特定非営利活動法人エイジコンサーン・ジャパン		
所在地	大阪市住之江区南港北2-1-10ATCビルITM棟9階		
訪問調査日	2009年2月10日	評価確定日	2009年2月24日

【情報提供票より】(2009年1月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年5月1日		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27人 人
職員数	26人	常勤	18人, 非常勤 5人, 常勤換算 7.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	4階建て	2～4階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	400 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(1月15日現在)

利用者人数	27名	男性	4名	女性	23名
要介護1	4名	要介護2	9名		
要介護3	12名	要介護4	2名		
要介護5	0	要支援2	2名		
年齢	平均 82.4歳	最低	65歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	くみのき診療所・青山第二病院・遠藤歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム千寿は南海高野線の滝谷駅と千代田駅の間で昔からの家の中に新しい家も増え始めた地域にある。高齢者の施設を多角的に運営している社会福祉法人ラポール会の中堅施設である。管理者、ユニットリーダー、サブリーダーは入居者が終の棲家として家庭的な生活を続けられるように意欲を持って働いていることが見受けられた。しかし法人の一施設という中で中々思うようにならない歯がゆさも感じている。開所4年運営者・管理者・職員が問題を見つめ、グループホーム千寿を益々充実させ、入居者の安寧のため日々研鑽を図っていかれることは楽しみである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	理念の掲示はまだ簡潔明瞭とはなっていない。家族に連絡した職員名の記録・献立については法人内の管理栄養士の助言を時々得ている。非常時通報マニュアル、連絡網の掲示は改善された。服薬の間違い防止の再検討は出来ている。重度化したときの対策は未だ確定できていない
重点項目②	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	主として管理者、各ユニットリーダー、サブリーダーで作成した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	4ヶ月に1度で開いている。会議は自治会、行政・家族・職員と参加者は多く活発に話し合われている。家族・職員の参加者名の記載が望ましいが家族名については公表には問題があると管理者の見解である。
重点項目④	家族はおおむね職員に感謝の念を持っている。だんだん体調が重度化した場合ホームの退去を求められるのではとの心配していただける家族がある。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域の自治会に入って、職員も入居者が地域の一員言うことを念頭において近所と接している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で当たり前暮らし・人間の尊厳を大切に を理念としている。	○	理念は簡潔で一目瞭然の言葉を職員全員で考えて作成することを期待する。其のことで職員に理念の意味が浸透し、来訪者にも訴える力が増すと考える。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を、全職員に年度初めの全体会議で話で説明し、理念を周知している。		職員全員で作った理念に沿って、入居者の生活を暖かく長生きしてよかった思う日々にしていただきたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。地藏盆・秋祭り・もちつき大会などに参加し近隣住民の方との交流の場としている。地域の掃除や夜警等に参加していきたい。		ホームが地域の高齢者情報の発信基地になれるように、例えば「認知症の対応の仕方」と言うような講習会を開くことも考えて見られたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果を全職員に伝えて日誌の記入方法を改善した。全ての事を具体的に改善策を立てて取り組めていない。		管理者は今回の外部評価が初めての体験である。外部評価を機に何とかホームの質を良くしたいとの意欲が見受けられた。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員からは入居者の日ごろの様子を話す。家族からの意見があまり出ていない。意見のしやすい雰囲気作りを考えてゆきたい。		職員からの報告にとどまらずに家族の意見をうまく引き出していかれたい。不参加の家族にも会議の内容をホーム便りなどで知らせることも考えて欲しい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所での会議や勉強会に参加している。		市役所での会議は他の事業所からの参加もあり事業所の悩みなどを話し合っているとのことで、お互いに交流の場ともなると思われる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理や受診前後等、個々に報告している。		報告はもっぱら電話が多いとのことである月1回くらいホーム全体、ユニットのこと入居者個人個人のホームでの様子をホーム便りとして報告することを考えられたい。ホームの職員数など事務量が増えることを考え法人の支援を願うところである。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関、各階に、意見箱を設置している。頂いた意見を苦情受付表に記入し改善策を考え、各階に伝えている。		苦情の申し出・家族からの連絡は丁寧に記録に残し、その後の対応も記録されている。これからも続けられたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動については、職員の性格や入居者の方への相性等考え、最小限の異動にしてる。		職員面談で「フロアーの異動の際に入居者の様子について気付くことがあった。」との言葉にフロアー間の人事交流の利点を見た。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人が、自分の目標を定め、個々の課題に意欲的に取り組みことで、能力開発を目指し、人材育成につとめている。内部研修や外部研修があれば、積極的に参加できるようにしている。	○	慢性的な人手不足から、研修が困難な様子である。通常の勤務を終えて疲れた身体で夜間に、研修に臨むのは厳しいことである。余裕ある人材の配置が無いと「研修に積極参加」は「絵に描いた餅」となるだけである。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当施設でグループホームの勉強会を行い、他のグループホームの方たちと交流する機会を設けている。地域ネットワーク会議にも参加している。		他の施設職員との交流でお互いに切磋琢磨して日常の職務の質の向上に努めて欲しい
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居するまでに必ず本人が、一度見学か遊びに来て頂く様に声はかけている。コミュニケーションが図れるようなことも考えていきたい。ショートステイも活用していきたい。		定員枠に余裕があるとグループホームにもショートステイが出来るようになっていく。利用者はもとより家族も支援することになる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	多忙な時には、一方的にお願いしたりしている時もある。一緒に過ごしながら、全職員が支えあう関係を意識するよう指導していきたい。		一方的な関係に成らないように、本人の得意分野を生かして職員とまた入居者同士お互いに支えあう関係づくりに努めて欲しい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望は、入居者からの訴えがあった時、関わりの中で知るようにしている。なかなか、十分な把握が出来ていない。新しい職員が多く理解できていない。本人の訴えに十分な時間がとれていない。入居者の生活についてグループホームとは・入居者の日々の生活に職員がどう関わっていくべきか、職員一人ひとり考え、勉強会・会議の参加に進んで出るようにする。	○	入居者本人の思いに添えていないと感じている職員が多い。その理由（職員数の不足・認知症に対する理解の不足）をしっかりと見据えてホームとしての対策を立てていただくことが更なるホームの発展にもつながる。法人本部にも理解を求めて解決されたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月2回のケアカンファレンスを行い、家族からの情報と関わりの中で挙がってきた情報を提供しあい、作成している。新しい職員は自己判断で理解しないように、古い職員は本人の日々の生活と家族の意見を踏まながら、意見・アイデア出していきたい。		介護計画作成においては事前に家族・医師の意見を元に、日々の入居者の様子考慮に入れて会議を開いて作成している。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しを行いながら、心身ともに、変化が生じ、必要性がある時は、新たな介護計画を作成している。入居者の状態変化が起こった際、瞬時には介護計画が見直せていない時もある。変化があった場合には話し合いを持ち細かな所まで計画を立てゆきたい。	○	見直し期間に即した介護計画会議は開かれている。入居者に対する介護計画の見直しの記録は分かりやすいものであった。症状の変化に対して即応はできていない。職員の日々の仕事量に起因するものであると推測される。変化に対応した介護計画の見直しができる人員の配置を望む。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
		○事業所の多機能性を活かした支援			1階のデイサービスは活発に活動している


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	本人や家族の状況、その時々 ^の 要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人本部の行事に参加したり本部のデイサービスに参加している。今後も入居者の希望があれば参加していく。		と見受けられた。自宅からデイサービスに出かけると言う感覚で利用でないものか。ホーム以外の人との交流も図られると考える。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望されている医療機関を優先している。訪問診療を希望された方のみ青山クリニック受診。訪問診療以外の方は家族が希望される病院を受診。受診の送迎、付き添いを行っている。		受診の支援は適宜行われているが、訪問診療は職員の手間は省けるものの往診料金の負担が発生する。その場合は家族に説明して了解を得ている。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ADLが低下し改善出来ない場合、管理者・副主任・リーダーが相談し、その上で家族に話し、主治医・看護師と相談していきたい。現場どこまで理解しているのか？今後会議で話し合っていきたい。	○	医療連携加算がされていることから、本人・家族と容態急変時の対応や、入院や医療処置のあり方について説明を行った書類が必要と思われる。現在は作成されていないが今後はそのような書類の整備が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを尊重し、ゆっくりとした対応と誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや、行為はしない様指導している。出来ない時もあるので、徹底していきたい。記録等の個人情報は保管庫に入れ鍵を掛けている。		声掛けが同世代の話し方になっていることがある。年長者として常に敬意を込めた態度での接遇が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先する事はないが、業務優先に自然となっている。全入居者に、短い時間であったとしても、一日に一回は有意義な時間を過ごして頂けるよう支援していきたい。原因を職員同志で話し合い解決策を考える。		日常業務の中で利用者優先にするべきと理解していても目先の仕事を優先にしまうことは、職員の手薄さから来ることでは無いであろうか、今一度急な欠勤者が出た場合などの対応を再検討していただきたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の前後も食事の一環として捉え入居者の出来る範囲での手伝ってもらったり、職員により料理を職員が一人で作ったり、対応は色々である。出来るだけ入居者に声を掛けて一緒に食事の準備をしてゆきたい。		入居者の状況も同じでは無いので、各ユニットの違いが有ることは当然のことである。出来るだけ持てる力を維持するためにも、入居者が出来ることはしてもらいながら食事の楽しみをともに作っていただきたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝から入浴出来るように準備している、昼食後から20時ころまで入居者の希望にあわせてゆっくり入浴が楽しめるように支援している、職員の都合になっているユニットがある。		全体として朝から夕食後20時までいつでもお風呂に入られるように準備をしている。実際に入浴する時間はユニットにより対応はまちまちである。お風呂に入りたがらない入居者には特に柔軟な対応をしていただき、入居者が入浴を楽しめる支援を期待する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の得意な事・地域の行事、興味のある催しなどに行き気晴らしの出来るように支援をしている。職員の理解不足で、入居者に楽しんで頂ける時間を作れていないときもある。職員がお互いに情報交換し入居者が楽しむことが出来るように支援をしていきたい。		毎日の生活に張りがあることが持てる力維持につながる。楽しみごと・出来る範囲の役割分担などを入居者各位にあわせたものを見つけて支援していただきたい。
	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、マッサージ、墓参りなど希望の有る方は、外に出かけられるように支援している。職員のメンバーや理解の差で、入居者から希望が無いと、職員側から声を掛けていない人がいる。どんな時でも、職員から、声を掛けていきたい。		遠出の外出は年に2~3回、散歩は気候のいいときは週に3回くらい出かける。職員から声を掛けて希望の表出がしやすいように支援されたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
		○鍵をかけないケアの実践	1階玄関は施錠しているが、デイの方から外		玄関はオートロックである。各フロアの玄

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
26	66	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出でるようになっている。その他は、鍵を掛けないケアを行っている。鍵を掛けることの弊害に対して理解不足があり、今後勉強会や会議で話し合い理解力を高めていきたい。		関わり・リンクは広いので閉塞感はない。職員の中には鍵を掛けることの弊害に対し理解不足がある。今後研鑽を積んで理解を高めることを期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回消防訓練で避難方法など再認識し、消火器の場所、ベランダなど避難に備えて整理をしている。また、自治会の防犯にも参加している。		年2回消防署非常訓練を実施している。自治会の防犯に入っている。避難訓練を経験していない職員対し緊急時の対応を周知させることを望む。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が野菜を多く取り入れられるように工夫し、献立を作り摂取量は個人記録に記録するようにしている。水分については一人あたり1日1.8ℓと決め記録している。偏ったメニューになっているので、工夫していきたい。	○	献立は全職員1週間づつ作成している。昼食・夕食でかなりカロリーの高そうな日もある。法人の管理栄養士に助言を得ているとのことであるが、毎月必ず管理栄養士にチェックしてもらうように法人の会議に提案して実現させることを期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに入居者の方が、折った折紙の飾りをし、季節感を出すとともに居心地よく過ごせるように心がけている。カーテンなどで、採光には、気を付けているが、音に対しては、耳の遠い方もいる為、対応できていない時もある。季節の花を飾ったりしていきたい。		リビングは広く和室も有りくつろいで過ごすことの出来る部屋になっている。各フロアはそれぞれの工夫がなされている。少々床に物が落ちているフロアもあったが、それは家庭的といえる範囲のものである。ただ家族アンケートには掃除が行き届いていないと言う意見が複数あった。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に入居者の方が使用されていたもの、大きな家具のみならず、写真1枚でも各居室に持参していただくよう、ご家族に協力依頼している。大きな家具類については搬送の協力も行っている。		居室は自分の好みのものを持ち込んでいる。仏壇も置いている入居者もいてそれぞれの思いの居室となっている。

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。